

サウス 17th(セブン)

学校だより（臨時号）
加古川市立野口南小学校
校長 長谷川 敬志

令和7年度 『全国学力・学習状況調査』の傾向と対策

1. 各教科の結果と分析

- 国語 会話文を題材とした文章を読み、会話に適した話し方・工夫・説明の方法などを選択して答える問題では、的確に捉える児童が多い。
ただ、出題者の目的や意図に合わせて、文中内の用語を引用し文書にまとめることや文章と図表を関連付けて記述することに苦手意識が見られる。
- 算数 基本的な計算能力、グラフや表などから数量を正確に読み取り、数量間の関係を数学的に捉える力は身につけている。ただ、特に分数に関する基礎的な考え方には課題が見られる。また、記述による解答を求める問題には、全国的な傾向と同様に課題が見られる。
- 理科 「生命」「地球」を柱とする領域の「知識」及び「技能」において、兵庫県・全国に比べ、正答率が同程度又は高くなっている。また他の領域においても、全国的な傾向に近く、同様の課題が見られる。

2. 児童質問紙に見られる本校6年生の特徴

- (1) 9割をこえる児童が「自分には良いところがある」と答え、約97%が「先生は良いところを認めてくれる」と答えるなど、自己肯定感が高く、多くの児童が将来の夢や目標を持っている。また約94%が「友達との関係に満足」しており、「困りごとや不安を先生や学校の大人に相談できる」と答えた児童が全国平均を上回り、9割の児童が「学校に行くのが楽しい」と感じている。
- (2) 97.5%の児童が「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と答え、9割をこえる児童が「人が困っている時は進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」と答えている。
- (3) 基本的な生活習慣（早寝【約88%】・早起き【91%】・朝ごはん【約96%】）は概ね良好である。

(4) 教科については、児童の5割が国語、6割が算数、8割が理科を得意と答えているが、好きかどうかについて尋ねると国語・算数好きが5割、理科好きが約8割と答え、好き＝得意ということがわかる。

(5) 家庭学習（ICTを活用した時間も含む）の習慣がついている児童は、全国平均に比べてやや少なく、学習時間も短い。特に土日における学習時間が少ない結果が出ている。

3. 改善への取組

(1) 「学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできている」と答えた児童が、全国平均程度となり、主体的・対話的で深い学びに向けた授業を積み上げていることを児童自身が実感している。引き続き、『協同的探究学習』の手法（自分の考えをまとめた上で、友達と意見交換し、さらに自分の考えを深めていく）に沿った授業を推進していく。

- ・ 多様な考えが可能な課題を提示し、学習を深める工夫をする。
- ・ 授業においては、まずは自分の考えをもたせた上で、発表や話し合う機会をより多く確保する。
- ・ 思考の過程やまとめを主語と述語の関係に気をつけ、根拠を示し、自分の言葉で表現することを指導する。その際、自分の考えか理解したことかなど表現内容を整理する。



(2) ICT等を活用した授業実践を行うことで、児童のICT活用能力の向上（できると答えた児童の割合【文書作成能力86%、情報収集96%、プレゼン作成82%】）が見られる。さらに活用能力向上と基礎学力（数学的な理解や言語理解等を含む）の定着をめざす。

(3) 従前から取り入れている『音読タイム』の活動を充実させ、さらに「読むこと」に親しみ、「読むこと」の楽しさを味わわせて、「ことばの力」の育成、読書習慣の醸成につなげる。

(4) 道徳の時間や特別活動（行事・学級活動）を中心に、自他の違いを認め、互いを思いやる心情を養う。

(5) 「学級生活をより良くするために学級会で話し合い、お互いの良さを生かして解決方法を決めている」と答えた児童が、約78%となり、昨年より低調となった。様々な問題を自分ごととして捉え、互いの意見をすり合わせながら、より良い解決方法を考えようとする姿勢を育む。

